

MIS008-01

会場:展示ホール7別室2

時間: 5月27日09:00-09:15

## 浦河沖～えりも沖の地震活動とVHF伝播異常との関係

### Empirical relation between seismic activity in the southern Hokkaido and EQ Echo observed at HSS station.

森谷 武男<sup>1\*</sup>, 茂木 透<sup>1</sup>

Takeo Moriya<sup>1\*</sup>, Toru Mogi<sup>1</sup>

<sup>1</sup>北大理地震火山研究観測センター

<sup>1</sup>ISV, Hokkaido Univ.

我々はある種のVHF電磁波伝播異常が地震前兆現象であることを示してきた。北海道日高山脈南部で起こる地震群の発生前に、NHKFM広尾局からの電波がえりも観測点で“地震エコー”として受信されてこの総継続時間(Te)からMや最大震度が推定できることがわかった。また北海道内のほかの地点でも同じような現象が観測されている。札幌市南区の観測点(HSS)では三石(MUJ)、浦河(URA)、八戸(HCI)などからの地震エコーが下北半島東方沖～浦河沖～えりも沖（十勝沖西部を含む）の地震に対して前兆的であることが分かってきた。2007年から発生したM7.1およびM6.4を含むおよそ40個の地震にたいして、M、最大震度、Teなどの間に統計的な関係が成立することが明らかになっている。講演では日高山脈、北海道東部と比較して同じような関係式が得られていることを示す。

キーワード:地震前兆, VHF散乱波,総異常継続時間,定量的関係

Keywords: earthquake precursor, VHF scattering (EQ Echo), Total duration time of EQ echo, quantitative relation